

# しろちどり



第71号

2012年 7月 日本野鳥の会三重

[http://www.geocities.jp/sirochidori\\_mie/](http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/)

## 山に寄せて

津市 平井正志

最近、山登りを再開した。やはり、山に登ることは楽しい。目にする木々に、鳥の声に、流れ落ちる小さな滝に、そして深い淵に、これまで、何回山に登ったかわからないが、すべてに新しい喜びがある。落ち葉を踏みながら、これまでの山登りと人生を振り返ることもできる。頂上に達した時の達成感は展望がなくても格別である。あれば、倍する感動がある。下山の時は次に登る山に思いを馳せる。

しかし、最近の山の変化には驚く、鈴鹿でも、青山高原でも、獅子ヶ岳でもシカの食害であろう、下草がほとんどない。あるのはトリカブト、シダ、バイケイソウ、灌木もアセビがやたらと目立つ。みんな毒があったり、あくの強いものばかりがのこっている。スズタケの葉でさえも食べられている。以前はシカに会うことはほとんどなかったが、昼間でも見かける時が多い。

また、外来の鳥であるソウシチョウの鳴き声もあちこちで聞かれた。鈴鹿の山でも南の姫越山でも、三重の山のかなりな部分で繁殖しているようである。西日本のあちこちでも同様なソウシチョウの話聞く。シカがなぜ増えたのかははっきりとは分からないが、人間の所作の結果であろう。林道の開通なのか、過度の植林か。あるいは誰も気づかない自然の変化が引き金かもしれない。自然は知らぬ間に変化していて、人が気づくときにはもう遅い時が多い。トキにしても、コウノトリにしてもそうであった。克明に自然を記録しておれば、早く気付くのだろうが。だれもやっていないし、気づいたとしてもそれを取り上げて対処してくれる公的な機関はない。この冬、冬鳥が少ないとの話であったが、これまで、冬鳥の数をきちんと調べている人はいない。どの鳥がどれくらい少ないのか誰も答えを出せない。自然を記録することの重要性は近年さらに増しているようだ。野鳥の会も、鳥を見たり、写真を撮るだけでなく、記録することにもっと重きをおいてもよいだろう。身近な場所でもよい、どこにどんな鳥がどれ

だけいたのか、それを記録するだけでも、積み重なれば貴重な記録となる。珍しい鳥だけが貴重なのではない。普通の鳥を記録することもまた、貴重である。

これは我々、自然を楽しんでいるもの、鳥を知っているものの使命でなかるうか。

表紙の言葉

「トキ親子」

ゴールデンウィーク直前、「放鳥トキのペアに雛誕生」のニュースが日本中の人々を興奮させたのではないのでしょうか。

学名"Nipponia nippon"まさに日本を象徴する鳥です。(国鳥はキジですが)

野生復帰した若いトキ夫婦のかわいい子どもたちの姿はそれだけでも、愛らしいですが、その姿に、最近、どこことなく陰を感じてしまう日本の再生の思いを馳せてしまいます。

私たち人間は、トキを日本から消し去った本人です。

しかし、今、トキは戻ってくれようとしています。

これからの日本の再生は、自分たちだけが地球の富をむさぼり繁栄するのではなく、トキとともに過ごせる日本を作っていかなければなりません。

いつか、伊勢の田んぼでも、ごく普通にトキが見れますように。

杉原豊

==== 目 次 =====

山に寄せて-----	1
表紙の言葉-----	1
風力発電は誰のために？-----	2
バードギャラリー-----	6
総会記事-----	8
事務局だより-----	12
野鳥記録-----	12
鳥獣保護区の申し入れについて-----	14
探鳥会報告-----	14
編集後記-----	19

## 風力発電は誰のため？

--- クマタカからの伝言 ---

度会町 小坂里香

伊勢自動車道を走っていると、雲出川流域から西方の山稜に、異様な光景を目にすることができます。いうまでもなく、津市・伊賀市の境、青山高原に立ち並ぶ巨大風車群です。最近、中部電力子会社の㈱シーテックが申請していた増設工事が認められ、合計で 90基もの規模になることが決定しています。

自然の中の巨大風車を景観としてどう思うかは主観の別れるところですが（美しいと感じる人もたくさん存在します）、大規模な開発行為として、自然環境に対して多大なインパクト（悪影響）があるだろうということについては、異論がある人は少ないと思います。

悪影響とはまず、敷地造成や道路工事に伴う樹木の伐採、土砂の流出、水の汚濁や水量の変化、騒音、排気ガスといった大気・水・生活環境の悪化。運用開始後の騒音、低周波などによる、人間を含む生物に及ぼす健康被害。そして、これは一般の人が軽視しがちなことですが、工事によって野生生物を大量に殺戮したり餌場や生息場所を奪ったり、行動圏や生息数の変化を引き起こして生態系のバランスを損なったりすることなどです。

いっぽう、「風力発電は、クリーンな発電」というのが一般認識というのも事実です。

風力発電で温暖化ガスも放射能の心配もな

い電気が発電できるなら、多少の犠牲はしかたないんじゃないの、人間の生活の安全と温暖化阻止が大事なんじゃないの、という人が世間には多く、風力発電の普及を後押ししています。それも、一面もつともな意見です。

しかし、風力発電が増えれば他の発電所はいらぬのかということ、そんなことはありません。

風力発電の発電能力は不安定です。そして、不安定な電気を受け入れるには、安定大容量のベース発電が必要です。なぜならば、日本の電気の送電システムは安定を誇っており、突然の停電は許されないのです、不安定な電気です。系統を乱してはならないからです。浴槽の水に濁った水を少々注いでも、大きな水質の変化はありませんが、濁った水が増えると、全体の水質が悪くなるのと同じです。濁り水が増えるほど、浴槽のきれいな水は大量に存在しなければなりません。

原発が稼働していた頃は、電力ニーズの 1/3 ほど、ベース電力の多くを原発が担っていました。今（2012年6月現在）はご存知の通り、すべての原発が停止し、ベース電力はほとんど石炭・石油火力と水力、天然ガス燃料での発電となっています。そして、時間別ニーズに対応する出力の調整は、石油火力のほか、揚水発電でも行なっています。揚水発電とは深夜電力で余った電気で水をダムの上に汲み上げ、昼間必要なだけ落として行う水力発電です。



獅子ヶ岳

この「深夜は電気が余る」というところを記憶しておきたいのです。ご存知のように電力会社が、割安な深夜電力を利用した「オール電化」をさかんに売り込んでいますね。

つまり、深夜は電気が余っているということ、電気需要の増減にタイムリーに対応できる発電設備が必要であるということがポイントです。

風力発電はどうかというと、いうまでもなく、風が吹くときにしか発電できません。それも、効率的に発電できるのは風速 12-14 メートルの間で、それ以下の場合には極端に能率が落ちます。また風速 25 m以上だと、風車の破損を防止するため、電氣的にブレーキをかけブレード（羽根）の角度などをコントロールして発電をストップするそうです（風力発電は外部からの送電がないと発電できません）。

そして、風は、人間のニーズに応じて吹いてはくれません。つまり、深夜、電力が余っているときには風力発電の電気は不要ですし、真夏のピーク需要でエアコンをがんがん使いたい気候、時間帯には通常風が吹かず、風力発電は発電できません。

風力発電機の実際設備利用率は平均 20%（定格出力＝最高の能力が発揮できる状態の 1/5 くらい）といえますから、2000kwh 級の最大規模の風車（ブレード直径 80 m、全体高さ 120m くらい、大型観覧車サイズ）で、計算通りなら 400kwh（100 w の電球を 4000 個 1 時間灯せる）の発電ができます。

電球 4000 個、スゴイと見るか、巨体にしては少ないと思うか？

しかも 23 時から翌朝 7 時までの 8 時間、つまり 1 日の 1/3 は深夜電力時間帯ですので、そのぶんを割り引いて考えないといけないのではないのでしょうか。つまり、設備利用率にさらに 2/3 をかけると、267kwh ほどになってしまいます。

あの巨体で、山を削って、道路を作り生き物を追い出して、大騒ぎの果てに 1 基 267kwh ? それも、計画通りにうまく発電できたという前提です。思うように風が吹かず、設備利用率一桁という風車や、故障が頻発して計画通り発電できない風車も多く存在します。

これではいくら巨大風車を建てまくっても、

しろちどり 71 号 (2012)

原子力発電所（1 基 1000000kwh）の代わりにはなりません。

もうひとつ、風力発電は石油石炭火力発電で発生する炭酸ガス、または燃料コストを削減する効果があるという利点ですが、火力発電は予測が困難な風力発電の電気の受け入れ量によって出力を調整することが非常に難しく、現実には行われていないようです。むしろ、上で述べたように、風力発電の発電量が増えたと、送電が不安定になるのでそちらの受け入れをカットする（解列という専門用語があります）ことが行われています。

さて色々な弊害があることが明白な上、発電能力もたいしたことがないなら、なぜ巨大ウインドファームは作られ続けるのでしょうか。

東日本大震災・福島原発事故以来、自然エネルギーに対する期待とともに、商機を狙う各種事業者の、風力発電や太陽光発電への関心が高まりを見せています。

事業者の目的は、いうまでもなく、事業利益です。また、電力会社など、分野によっては環境問題を重視しているという PR 効果もあるでしょう。

ウインドファームに関して言えば、かつて、建設費の 1/3（自治体風車は 1/2）は政府の補助金が出るということで、採算の取れない風力発電所が乱開発されて、自治体の財政を圧迫したり、健康被害が出たりなど、大きな問題となりました。



撮影：K.K.

クマタカ：獅子ヶ岳 日の出の森付近にて  
2012 年 4 月 1 日

その後補助金の廃止により、建設ブームが落ち着いたと思ったら、昨今の「自然エネルギーをもっと」の大合唱。

その声（と業界圧力）に押された政府の政策で、自然（再生可能）エネルギーで発電した電気を電力会社が高額で買い取ってくれる制度（固定買取価格制度）がこの7月からスタートすることになり、かつての補助金効果に匹敵する「うまみ」が生まれることになったのです。

事業者は、買取価格が kwh 当たり15-20 円なら 20 年の買取期間中に採算が取れると言っていますが、どうやら 23 円くらいになりそうなので、建設ブームの再来が起こりそうな気配ですね。電力会社は深夜であろうが電気がいらなからうが、全量買取りしなくてはならないので、発電量に 23 円をかけた数字がまるまる、風力発電事業の売上げです。

先に挙げた 2000kwh 風車なら、1 年間に 2000kwh ×20 %× 23円× 24 時間×365 日で、だいたい 8 千万円強という数字になります。

25 基なら20 億円です。

20 年間、買取りしてもらえると、 400 億円

の売上げとなります。

建設コストやメンテナンス費はかかりますが、計画通り発電さえできれば、「採算が合う」という話も、なるほどと思える数字です。

問題は、この「買取り」のコストが消費者、つまり私たち負担であるということです。

地元の山を破壊され、事業者に利益を提供し、電気代の負担も増えるというわけで、割り切れない気持ちがするのは私だけでしょうか。

もっとも、地元自治体にとっては、借地料や固定資産税、法人税などの収入、建設業者への下請け工事発注、林道整備、「エコ発電」を目玉にした町おこしと、魅力的な話も多いようです。そしてここが、計画に異を唱える上でもっとも難しいところなのです。

現在、県内のあちこちで、くすぶっていたウインドファーム計画がに火がついており、地元でも 2 ヶ所に計画があります。中でも 2006 年頃から計画されていた「度会ウインドファーム」（獅子ヶ岳山城）では、この半年、県の環境影響評価の手続きがあれよあれよという間に、猛スピードで進んでいます。（図）



国土地理院地形図

この計画については、風車から 1km 未満という至近距離にクマタカの営巣が確認され、建設地の山稜を横切って行動圏が広がっているため、当会及び本部日本野鳥の会が、事業者に対しそれぞれ「建設反対」「建設不適」の意見を表明しています。他にも、環境影響評価準備書によると驚くべき多様な動植物の生息が確認され、ウインドファーム建設によって大きな影響を被ることが明らかになっています。また、風車が立ち並ぶ山稜は、鳥類の渡りのコースになっており、県南部で越冬するオオワシの渡る姿まで観察されています。大型の鳥類、猛きん類に関しては、バードストライク（風車への衝突）事故も懸念されるところです。

しかし、政府と市町の「政策」の後押しがありますので、誰が反対の意見を書こうが述べようが、計画は猪突猛進です。何しろ、地元度会町は「地域新エネルギービジョン」なるものを策定し、「風力発電事業者の誘致」を町の施策として謳っているのです。

市町の首長か知事が住民の反対意見に耳を傾け、考えを変えて建設に NO を唱えない限り、あるいは事業者に何か重大な経営危機で

も生じない限りは、獅子ヶ岳一帯の山域の青山高原化は、時間の問題と言えるでしょう。

この 4 月 1 日に現地で緊急探鳥会を実施したところ、風車建設予定地を 2 度にわたり、クマタカが悠々と横切っていました。(写真) また、先日、現地を訪れた際には、なぜか山頂大駐車場のフェンスの隙間に、1 枚のクマタカの羽根が刺さっていました。

誰かが落ちていた羽根を拾って刺したのですが、こんなメッセージが聞こえてくるようです。

「何をしてくれるんだね、山は人間だけのものじゃないよ。」

原発は欲しくなし、電気は使いたし、といながら免罪符のように自然エネルギーの活用を掲げるだけで、震災以前からの生活を変えようとしぬ私たち。

クマタカは、壊されゆく山は、人間の業に黙して身を任せるほかはないのでしょうか。



<b>取扱商品</b>
フィールドスコープ 双眼鏡(小型・大型) 天体望遠鏡 カメラ(新品・中古) その他光学製品各種
<b>取扱メーカー</b>
KOWA・NIKON・FUJINON MIYAUCHI・VIXEN・PENTAX他

**中部地区最大の光学製品専門店**

**TELESCOPE CENTER EYEBELL**

テレスコープセンターアイベル (株式会社アイベル)  
〒514-0801 津市船頭町3412(メガネのマスダ2F) TEL 059-228-4119  
定休日/毎週水曜日 営業時間/10:00~19:00  
ホームページ <http://www.eyebell.com> メールアドレス [eyebell@diamond.broba.cc](mailto:eyebell@diamond.broba.cc)

## バードギャラリー

林 益夫



クマタカ

親子熊を求め残雪ある山に時々入る。この地域は熊の生活圏でもある。一望できる場所から熊の出没を待っているとクマタカが眼に入る。双眼鏡で追って行くと向い側山肌急斜面の枯れ木に止まった。動く気配がなく車で林道を走り真近に接近する。こちらの行動も気にする素振りもなく、何か獲物を狙っている様子である。虹彩がオレンジ色に近い老成鳥だ。2～3カット撮り退散する

オオジシギ

声はすれども中々姿を現さない高原性のシギ。縄張り意識も強く草原では岩の上や枯れ枝に止まり鳴いていることも多い





#### ジュウイチ

夏鳥を求め 2000 m級の山を走っていると近くでツツドリ  
の音が聞こえてきた。何処に  
いるのか停車して様子を伺っ  
ていると目の前の枝に偶然止  
まってくれたラッキーな 1 枚

#### アカショウビン

森に響きわたるキョロロの声。そ  
の昔アカショウビン見たさに鳥取まで  
行き出会ったときは感動した



#### ブッポウソウ

鳴く声は地味だが羽を広げると美しい。  
動きはしなやかでトンボ・セミなどを  
いとも簡単に捕らえる



コノハズク

昼間出会うチャンスは滅多にない 赤色型オス

=====

## 日本野鳥の会三重 2012 年度 総会

日本野鳥の会三重の 2012 年度 総会が 2012 年 5 月 26 日(土) 13:30 より、三重県教育文化会館、中会議室において開かれました。以下にその議事資料を掲載します。ただし、会報掲載用に体裁を変えてあります。なお、企画部の報告、活動計画は省略します。探鳥会案内を参照下さい。

総会では理事が新たに 2 名選出されました。新理事は安藤宣朗さん（北勢地区）と川瀬裕之さん（北勢地区）です。任期は 1 年です。

また、2011 年度決算報告、監査報告および 2012 年度予算案も承認されました。予算案のみ掲載します。

### 2011 年度 活動報告

#### 保護部

##### 1) 藤原岳イヌワシ問題

調査および太平洋セメント（T）社との話し合い。

T社とは 4 団体（本会、野鳥の会滋賀、愛知県支部、財団本部）共同で話し合いを持った。環境影響評価準備書では治田鉦区の中止（延期と表現）が決まった。山頂鉦区については、採餌場所であることが判明、T社は代償措置として林にギャップを作るとしている。有効性に疑問。中日記者に連絡し、問題点を指摘した。2012 年 2 月 6 日三重版に記事が掲載された。（環境影響評価 評価書が提出された）

出口組との話し合い：営巣地近傍で石灰石採掘を行っている出口組（桑名市）と話し合いを持った（2011 年 12 月 14 日）。将来採掘場所を広げる意向を持っており、営巣に影響の出る恐れがある。

防災事業について：桑名建設事務所と話し合いを持った（2012 年 4 月 5 日）。将来営巣に影響の

でる可能性が高い。

## 2) 木曾岬干拓地問題

三重県が干拓地のチュウヒ繁殖地にメガソーラー（高速道路南側 80ha）を提案。3者（本会、愛知県支部、名古屋鳥類調査会）で知事に 2012 年 2 月 26 日公開質問と意見提出。28 日新聞に報道された（朝日、毎日、中日、読売）。

## 3) 青山高原風力発電増設計画

準備書に反対の意見を提出し、説明会に出席、意見を陳述した。また、審議委員会でも会員が反対意見を述べた。4 月 10 日に県は自然公園法にもとづく例外を認め、40 基の建設を許可した。

## 4) 度会町、南伊勢町風力発電計画

### 4-1 エコパワーによる計画について：

クマタカ営巣地の至近距離に風車建設（巣から 1km 以内に約 6 本）計画に計画全体に反対の意見書を提出、同時に三重県知事にも提出（3 月 29 日）。同時に記者クラブ投げ込み＝伊勢新聞が報道（3 月 30 日）。財団本部も意見書を提出した（4 月 2 日）。（4 月 1 日に探鳥会を行った）

### 4-2：安藤建設による計画について：

度会南伊勢風力：方法書に詳細な調査計画が記載されておらず、かつ調査の期間が短いので方法書の段階で反対の意見を提出した。

## 5) コアジサシ保護

国土交通省に届け出て、看板、デコイを設置、産卵場所を整備した。ハヤブサが現れ、集団での繁殖は失敗したが、1 巣 2 羽が孵化し、1 羽が巣立った。

## 6) 中勢海岸保護 パネルを作りしぜん文化祭（2012 年 3 月 25 日）で掲示

## 研究部

### 1. 委託調査

○県委託ガンカモ類及びカワウ一斉調査 調査日：1 月中旬、調査地点：174ヶ所、調査者：35名

○県委託カワウねぐらコロニー調査 調査日：年 3 回（7 月、12 月、3 月）調査地点：17ヶ所、調査者：19名

### 2. モニタリングサイト 1000（環境省生物多様センター）

○シギ・チドリ類調査：コアサイト：雲出川河口五主海岸、安濃川河口～志登茂川河口、愛宕川～櫛田川河口、一般サイト：鈴鹿川河口～鈴鹿派川河口、豊津浦～町屋浦、香良洲海岸、阪内川河口、吉崎河岸、高松干潟、城南干拓  
調査日：各地で年 3 回（春期、秋期、冬期、）調査地点：10 地点、調査者：7 名



五主干潟

## 編集部

しろちどり発行（年間4号発行）、67号（2011年4月）、68号（2011年8月）、  
69号（2011年11月）、70号（2012年3月）を発行した。

パネルの制作：展示用にA1版のパネル 豊津浦町屋浦、安濃川河口、櫛田金剛川、五主海岸、  
鈴鹿山系、海蔵川の6種を制作

## 事務局

1. 総会  
2011年5月15日（日） 三重県教育文化会館 会議室
2. 理事会  
第1回 2011年 5月15日（日） 三重県教育文化会館  
第2回 11月20日（日） 津市雲出市民センター  
第3回 2012年 3月 4日（日） 橋南市民センター

## 2012年度 活動計画

### 保護部

- 1) 藤原岳イヌワシ問題：T社と代償措置の評価、および評価方法について話し合いを続ける。  
イヌワシの観察を継続する。出口組、桑名建設事務所とも話し合う。
- 2) 度会風力発電問題：クマタカの営巣、ヤイロチョウ、フクロウなどの観察し、監視する。  
必要に応じて、県、事業者へ申し入れをする。
- 3) 木曾岬干拓地：チュウヒの調査継続、チュウヒサミットを計画する。チュウヒネットワークを立ち上げる。
- 4) コアジサシ保護：昨年と同様にデコイを作り、看板を設置し集団繁殖を誘う。
- 5) 中勢海岸保護  
地元自治体、津市、松阪市にラムサール登録を働きかける。
- 6) 猛禽繁殖調査  
クマタカ（北勢地方）繁殖調査（当会独自＝交通費支給）、およびオオタカの繁殖調査  
（中勢地方＝県委託事業）を継続する。

### 研究部

今後もガン・カモ類調査、カワウねぐらコロニー調査、シギ・チドリ調査を行っていく。

### 編集部

しろちどり年4回発行（7月、10月、1月、4月）その他にタカ渡り報告特集を別冊で発行する。

パネル制作 さらに、木曾岬干拓地、南部の山系（青山、白猪山、獅子ヶ岳など）を制作する。

## 事務局

1. 総会  
2012年5月26日（土） 三重県教育文化会館
2. 理事会  
第1回 2012年 5月26日（土）  
第2回 8月19日（日）  
第3回 11月25日（日）  
第4回 2013年 3月 3日（日）

日本野鳥の会 三重 24年度(2012年度)予算書

24年度 自2012年4月1日 至2013年3月31日

単位:円

科 目	23年度実績	24年度予算	比較増減	備 考	24年度予算会計区分	
	一般・特別合算	一般・特別合算			一般会計	特別会計
<事業高>						
支部会費	647,850	650,000	2,150	2000円×325人	650,000	0
受託収入	2,958,900	2,940,000	-18,900		0	2,940,000
受取補助金	0	0	0		0	0
受取寄付金	15,000	10,000	-5,000		10,000	0
事業高合計	3,621,750	3,600,000	-21,750		660,000	2,940,000
事業利益	3,621,750	3,600,000	-21,750		660,000	2,940,000
<事業管理費>						
支払調査費	1,946,142	1,930,000	-16,142		0	1,930,000
報告費	219,000	144,000	-75,000	生物多様減	0	144,000
雑損費	179,000	176,000	-3,000		0	176,000
通信費	293,636	307,000	13,364		194,073	112,927
印刷費	205,169	208,000	2,831		197,445	10,555
消耗品費	323,132	110,000	-213,132	トランシーバ減	83,761	26,239
減価償却費	0	0	0			
会場費	18,515	40,000	21,485	チュウヒ会場費増	28,633	11,367
会議費	4,620	5,000	380		940	4,060
旅費交通費	610,200	379,000	-231,200	イヌワシ調査減	287,711	91,289
支払手数料	52,500	52,500	0		9,874	42,626
講師謝礼金	10,000	20,000	10,000		20,000	0
図書費	6,000	0	-6,000		0	0
寄付金	0	0	0		0	0
諸会費	5,000	9,100	4,100		9,100	0
雑費	36,790	46,000	9,210		18,316	27,684
事務費	77,000	61,000	-16,000		0	61,000
保険費	49,700	49,000	-700		0	49,000
一般管理費合計	4,036,404	3,536,600	-499,804		849,853	2,686,747
事業総利益	-414,654	63,400	478,054		-189,853	253,253
<事業外収益>						
受取利息	28,730	1,000	-27,730	定額預金10年満期減	1,000	0
雑収入	20,000	20,000			20,000	0
事業外収益合計	48,730	21,000	-27,730		21,000	0
当期純利益	-365,924	84,400	450,324		-168,853	253,253
<税金等>						
法人税等	111,000	84,400	-26,600		0	84,400
税引後利益	-476,924	0	476,924		-168,853	168,853

\* 一般会計で168,853円の赤字、特別会計で168,853円の黒字、差引税引後利益は0円となる。

事務局だより活動記録 (2012年2月～6月)

- 2/4 藤原鉦山および周辺開発問題について、中日新聞社の取材を受けた
- 2/13 木曾岬干拓地のメガソーラー計画について、NHKより取材を受けた
- 2/14 「第11次鳥獣保護事業計画書(案)に対する要望および意見」を県に提出
- 2/15 「度会ウインドファーム事業環境影響評価準備書」について、エコ・パワー(株)から説明を受けた
- 2/17 鈴鹿山系の鳥・海蔵川のパネルが完成
- 2/24 「度会ウインドファーム事業環境影響評価準備書」を閲覧
- 2/24,25,26 「度会ウインドファーム事業環境影響評価準備書」の説明会に出席
- 2/27 「木曾岬干拓地に計画されているメガソーラーに対する意見および公開質問状」を愛知県支部・名古屋鳥類調査会との3者連名で県へ提出
- 2 会報「しろちどり第70号」発行・発送作業
- 3/4 第3回理事会開催
- 3/24～25 「三重しぜん文化祭 in すずか」に出展参加
- 3/29 度会ウインドファーム事業環境影響評価準備書」への意見書をエコ・パワー(株)に提出
- 3 決算作業・県委託事業まとめ作業
- 4/2 「度会ウインドファーム事業」について、朝日新聞社より取材を受けた
- 4/14 「NPO法人市民まちづくり風の会」から連絡受け、話し合い
- 4/25 県委託・「平成23年度震災対策施設整備防災ダム事業(地震対策)環境調査委託」入札
- 5/1 五主海岸コアジサシ繁殖地保護活動
- 5/6 2011年度決算について監査を行った
- 5/9 鳥獣保護区設定について、いなべ市へ申し入れを行った
- 6/3 「度会ウインドファーム事業環境影響評価に関する聴取会」へ発表出席
- 6/3～4 第20回中部ブロック会議へ出席
- 今後の予定
- 7 会報「しろちどり第71号,72号」発行
- 8 第2回理事会

野鳥記録 (2012年6月11日報告分まで)

種名	個体数	記録日	観察場所	記録報告者	写真	脚注
カナダカモメ	1	2012/2/21	津市白塚海岸	阿部礼子	あり	
ダイシャクシギ	4	2012/2/28	津市安濃川河口	中村洋子	なし	
アリスイ	1	2012/3/14	桑名市員弁川	山神勝治	あり	
アメリカコガモ	1	2012/3/19	いなべ市大安町両ヶ池	森田えつ子	あり	
ソウシチョウ	不明	2012/3/22	度会郡大紀町錦、姫越山	平井正志	なし	1
ソウシチョウ	不明	2012/4/10	津市美杉町川上修験業山	平井正志	なし	2
ソウシチョウ	不明	2012/4/18	四日市市水沢町鎌ヶ岳	平井正志	なし	3
ハイイロヒレアシシギ	63	2012/4/22	津市香良洲海岸	今井光昌	あり	4
ヨーロッパトウネン	1	2012/5/25	松坂市五主町 雲出川河口	今井光昌	あり	5
1: 鳴き声のみ、視認せず。爺佐々塚付近、およびのろし台付近						
2: 鳴き声のみ、視認せず。若宮八幡からの登山道、標高900m付近						
3: 鳴き声のみ、視認せず。宮妻峡からの登山道、標高500m付近、および1000m付近						
4: 4月23日まで						
5: 三列風切、雨覆の羽縁が赤褐色で軸斑が黒い。喉が白い。嘴と足ががトウネンより長め。						

野鳥記録 (写真=前ページ参照)

カナダカモメ



アリスイ



アメリカコガモ



ハイイロヒレアシシギ

## 野鳥記録 (写真)

ヨーロッパトウネン



### 鈴鹿山脈北部の保護区について

保護部

鈴鹿山脈の竜ヶ岳以南はほぼ鳥獣保護区となっています。しかし、竜ヶ岳以北のほとんどは鳥獣保護区になっていません。ここはイヌワシ、クマタカの生息地でもあり、保護区にすべきと考え、地元の同意を得るため、いなべ市長に申し入れ、2012年5月9日に市

長と、会員の村田芳雄さんが話し合いました。しかし、獣害の増加を理由に、保護区の拡大には消極的であり、同意が得られませんでした。イヌワシの放卵育雛期と狩猟期は重複し、営巣域近くでの銃撃は繁殖に大きな影響を及ぼすと考えられます。今後もいなべ市側との話し合いを持つ予定です。

### 探鳥会報告 (2012年1月～4月)

#### ● 木曾岬干拓地探鳥会

2012年1月22日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者21名(会員9名)

カイツブリ(20)、カワウ(60)、ダイサギ(1)、コサギ(4)、アオサギ(7)、マガモ(100)、カルガモ(50)、コガモ(200)、オカヨシガモ(16)、ハシビロガモ(30)、ホシハジロ(15)、キンクロハジロ(50)、ミサゴ(5)、ノスリ(5)、チュウヒ(3)、チョウゲンボウ(2)、キジ(3)、オオバン(2)、ケリ(4)、タゲリ(35)、クサシギ(1)、イソシギ(2)、タシギ(3)、ユリカモメ(3)、カモメ(2)、キジバト(15)、カワセミ(1)、ヒバリ(20)、キセキレイ(1)、ハクセキレイ(7)、タヒバリ(3)、ヒヨドリ(10)、モズ(4)、ジョウビタキ(1)、ツグミ(5)、ホオジロ(2)、アオジ(1)、カワラヒワ(1)、スズメ(30)、ムクドリ(40)、ハシボ

ソガラス(50)、ハシブトガラス(20)、ドバト(40)計43種

弥富市の清掃センターの上でチョウゲンボウとハシボソガラスのバトルがみられた。

チュウヒ・ミサゴ・ノスリなどの猛禽類が木曾岬干拓地の上をたくさん飛んでいた。

#### ● 銚子川周辺探鳥会

2012年1月22日(日) 9:00～12:00

紀北町海山区 銚子川周辺

中井節二 北川直人 参加者14名(会員9名)

カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、ヒドリガモ、カワアイサ、ミサゴ、トビ、ハヤブサ、キジ、バン、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ウミネコ、カワセミ、イワツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、ツグミ、ウグイス、メジロ、ホオジロ、ホオアカ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガ

ラス、ドバト 計36種

オオワシが見れませんでした。昨年より種類数が多かったです。ここでは珍しいカワアイサ、ホオアカなども見れました。又、カワウが200羽位飛んでいるのも見れました。

● 大淀海岸探鳥会

2012年1月29日(日) 9:30～11:00

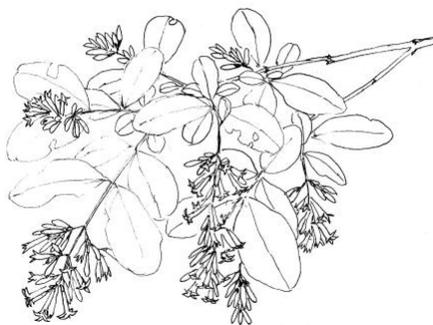
多気郡明和町 大淀海岸

岡本忠佳 中西 章 参加者15名(会員14名)

カイツブリ、ヒメウ、カワウ、アオサギ、マガモ、ヒドリガモ、トビ、シロチドリ、ハマシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、キジバト、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、メジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計25種

日差しはあるものの風が強く気温も低い肌寒い日でしたが、県内各地から15名もの方達が集まりました。昨日下見をしていたとき、大淀漁港内の水面に浮かんできたスナメリを発見したので、期待したのですが現れず残念でした。

海上のテトラポット上にカワウに混じってヒメウが1羽おり、大阪から2名のカメラマンが撮影に来ており「今日は最高の写真が撮れました。」と言われました。すぐそばの砂原上では、約50羽のハマシギが石の様に動かず休んでいるのが印象的でした。参加者の皆さんから「今年はツグミの飛来が少ない。」と言われましたが、今日も1羽のみの観察でした。



イボタノキ

● 真泥池探鳥会

2012年1月29日(日) 9:30～11:30

伊賀市 真泥池

前澤昭彦 田中豊成 参加者9名(会員6名)  
マガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、トビ、ノスリ、オオバン、キジバト、ヒヨドリ、ジョウビタキ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、アトリ、カワラヒワ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計21種

久しぶりの真泥池探鳥会。「久しぶりに探鳥会をここでしてくれたので来ました。」という地元の人がありました。

● 木曾三川探鳥会

(2012年2月12日開催予定でしたが、集合場所が降雨のため中止しました。)

● 木曾岬干拓地探鳥会

2012年2月26日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地  
共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者28名(会員9名)

カイツブリ(5)、カワウ(3)、ダイサギ(1)、アオサギ(4)、マガモ(30)、カルガモ(50)、コガモ(100)、オカヨシガモ(30)、ハシビロガモ(80)、ホシハジロ(10)、キンクロハジロ(50)、ミサゴ(4)、ノスリ(2)、チュウヒ(3)、ハヤブサ(1)、チョウゲンボウ(2)、キジ(1)、ケリ(5)、タゲリ(10)、クサシギ(4)、イソシギ(1)、キジバト(12)、カワセミ(1)、ヒバリ(12)、ハクセキレイ(7)、タヒバリ(6)、ヒヨドリ(20)、ツグミ(2)、シジュウカラ(2)、メジロ(1)、ホオジロ(10)、カワラヒワ(3)、スズメ(20)、ムクドリ(30)、ハシボソガラス(50)、ハシブトガラス(30)、ドバト(2) 計37種

NHKの電波塔の頂きにハヤブサがいました。木曾岬干拓地ではチュウヒ・ノスリが何度も姿を現しました。三重県知事の打ち出したメガソーラー計画が懸念されます。

● 五十鈴公園探鳥会

2012年2月26日(日) 10:00～11:30

伊勢市 五十鈴公園

高木正文 参加者16名(会員10名)

カイツブリ、マガモ、カルガモ、イソシギ、カワセミ、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、イソヒヨドリ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト 計17種

寒い曇天の日であったが、カワセミ、イソヒヨドリ、ビンズイが十二分に観られた。また、カワセミは何度もダイビングまで見せてくれた。今冬は冬鳥、特にツグミ類がほとんど見られなかった。曇天のため、ノスリの出現もなかった。

小学生の男子が参加してくれたのは嬉しかった。

### ● 石垣池探鳥会

2012年3月4日(日) 10:00～12:00

鈴鹿市石垣町 石垣池

市川雄二 市川美代子 参加者12名(会員6名)

カワウ(4)、アオサギ(9)、マガモ(6)、カルガモ(40)、コガモ(7)、ヨシガモ(8)、ヒドリガモ(22)、オナガガモ(2)、ハシビロガモ(12)、ミコアイサ(1)、キジバト(5)、ハクセキレイ(2)、ヒヨドリ(12)、ツグミ(6)、カワラヒワ(8)、スズメ(10)、ハシボソガラス(8)、ハシブトガラス(1) 計18種

曇り、正午前には小雨がぱらつきましたが、風もなくおだやかな日和でした。

自己紹介のあと、池を一周しました。参加者の半数の方は市の公報や新聞でこの行事を知ったとのこと。18種の野鳥を観察することができました。初めて参加された方は、ヨシガモやミコアイサの姿の美しさに感動されました。

当日は、地元ケーブルテレビ局から取材をしていただきました。

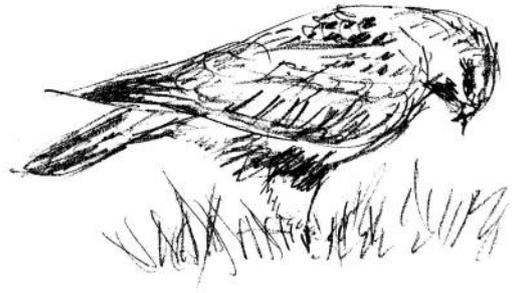
### ● 海蔵川探鳥会

2012年3月13日(火) 9:40～12:00

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

尾畑玲子 高 和義 参加者18名(会員15名)

カイツブリ(2)、カワウ(1)、アオサギ(1)、マ



ノスリ

ガモ(2)、カルガモ、ホシハジロ(1)、キンクロハジロ(4)、バン(3)、イソシギ(1)、キジバト(2)、カワセミ(1)、ヒバリ(1)、ツバメ(14)、キセキレイ(1)、ハクセキレイ(8)、セグロセキレイ(1)、ヒヨドリ(3)、モズ(2)、ツグミ(1)、ウグイス(2)、ホオジロ(2)、カワラヒワ(2)、イカル(50)、ハシボソガラス(1)、ハシブトガラス(4) 計25種

小雪がちらつく朝だったが開会時刻ごろには太陽の暖かさがいくらか感じられるようになった。そんな陽気に誘われてか現れたツバメは14羽。今季の初認。さらに、イカルの群れ(開始前に約50羽、後分かれて15羽)が観察できた。ツクシが背比べしており、いよいよ春は近い。確認できた野鳥の種類はまあまあだが冬鳥も留鳥も数が少なくて気になる。

今回はリーダーの都合により、OBのリーダー、サブリーダーで案内した。

### ● 安濃川探鳥会

2012年3月18日(日) 10:00～12:00

津市 安濃川河口

杉村滋弘 落合 修 参加者13名(会員11名)

カワウ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、シロチドリ、ハマシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、カモメ、キジバト、ヒバリ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ムクドリ、ハシボソガラス、ミヤコドリ、ミユビシギ、ウミアイサ 計26種

ミヤコドリ、ウミアイサ、ホオジロガモが

多数見られて、参加していただいた人達に満足していただいた。

途中、小雨があったが、東屋が追加されていてラッキーであった。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2012年3月25日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地  
共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者15名(会員9名)

カイツブリ(2)、カワウ(60)、ダイサギ(3)、コサギ(1)、アオサギ(6)、マガモ(15)、カルガモ(50)、コガモ(100)、オカヨシガモ(10)、ハシビロガモ(60)、ホシハジロ(30)、キンクロハジロ(15)、ミコアイサ(4)、ミサゴ(1)、オオタカ(1)、ノスリ(2)、サシバ(3)、チュウヒ(2)、キジ(1)、オオバン(7)、コチドリ(15)、ケリ(10)、タゲリ(1)、クサシギ(3)、イソシギ(1)、カモメ(1)、ウミネコ(2)、キジバト(6)、カワセミ(1)、ヒバリ(13)、ハクセキレイ(10)、タヒバリ(13)、ヒヨドリ(6)、モズ(1)、ツグミ(2)、ホオジロ(5)、カワラヒワ(7)、スズメ(15)、ムクドリ(50)、ハシボソガラス(15)、ハシブトガラス(10)、ドバト(4) 計42種

集合時間に上空をサシバ1羽が東へ、さらに2羽観察できました。まだ、カモ類もいろいろ残っていて、42種も出現しました。



アマサギ

● なめり湖探鳥会

2012年3月25日(日) 9:30～11:30

松阪市嬉野 なめり湖

水森和子 宮田たつ 参加者15名(会員14名)

カワウ、トビ、オオタカ、ハイタカ、カワセミ、アカゲラ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、ハシボソガラス 計18種

3月彼岸が過ぎても寒く、当日も風の強い日でしたが、集合場所では早速オオタカが見られ、会員の方のヤツガシラの話で盛り上がり、幸先のよいスタートでした。途中エナガの巣づくり、声だけでしたがアカゲラ、カワセミの声を聞き、鳥種は18種でしたが心暖まる探鳥会でした。

● 度会町獅子ヶ岳・日の出の森探鳥会

2012年4月1日(日) 9:30～12:30

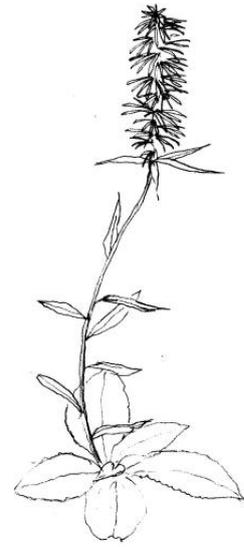
度会郡度会町 「日の出の森」周辺

平井正志 小坂里香 西村泉 参加者26名(会員19名)

トビ、クマタカ、キジバト、コゲラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計16種

車で山の上の「日の出の森」駐車場まで移動。車を降りるや否や、誰かが「クマタカ!」、一羽駐車場北側の斜面の上を悠々と巡回している。クマタカが山陰に隠れてから、風力発電計画について概略を説明、車道を上の駐車場まで歩く。鳥は残念ながら少ない。自然と植物に眼が行く。参加者に植物に詳しい方がみえたので、みんなで聞きまくる。ヒメシャラの木がやけに多い。それに加えて、リョウブ、エゴノキ、コナラ、クロモジなど落葉樹の明るい林。まだ芽吹いてはいないが、低木はアセビが圧倒的に多い。シカの食害のせいであろう。冬の鳥はもう渡っていったようだ。しかし、夏鳥の渡来にはまだ、一月ほど早い。それでも、カラ類などは声を聞くことができた。ウグイスもホーホケキョを上手に唱えることができるようになっていた。この「日の出の森」を整備したときにクスノ

キやイチョウ、それにクチナシなどこの山に本来あるはずもない木をたくさん植えたようで、一同がっかりしていた。風況を調べるポールの所まで足を伸ばし、しばらく植物を観察して駐車場まで降りる。途中 5 名は獅子ヶ岳山頂をめざした。この明るい林が管理用道路に変わり、巨大な風車が立ち並ぶようになると何か改善されることがあるのだろうか？鳥羽の行者山でも、松阪の白猪山でも、またここ、獅子ヶ岳でも風力発電を念頭においた探鳥会を開催すると必ずクマタカが出現する。偶然であろうか？あのクマタカがいつまでも悠々と空を舞える山を維持してほしいものである。麓の駐車場まで降りると建物の屋上でイソヒヨがさえずり、ツバメが巣作りを始めていた。山里は春の盛りであった。



シライトソウ

● 安濃川中流域探鳥会

2012年4月8日(日) 10:00 ~ 12:00

津市 安濃川中流域

杉村滋弘 石原 宏 参加者24名(会員12名)

カイツブリ、カワウ、コサギ、アオサギ、コガモ、オオタカ、キジ、クサシギ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ノビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ドバト 計29種

絶好のお天気にめぐまれ、新聞を見て参加された4人を含め合計24人の参加を得て、にぎやかな探鳥会となった。

期待したヒレンジャクは見られなかったが、カワセミやキジ、それにノビタキ、カシラダカ、アオジ、ホオジロ等を見てもらえて、お子さん連れの参加者にも喜んでもらった。

● 五主探鳥会

2012年4月15日(日) 9:30 ~ 11:30

松阪市 五主海岸

西村四郎 小野新子 参加者20名(会員18名)

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、シマアジ、

オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサ、ミサゴ、トビ、キジ、オオバン、シロチドリ、メダイチドリ、ケリ、ハマシギ、オバシギ、オオハシシギ、ツルシギ、アオアシシギ、タカブシギ、タシギ、セイタカシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、カモメ、ウミネコ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ツグミ、セッカ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計48種  
雲出川河口では夏羽となったハマシギ、オバシギ、メダイチドリなど、またカモ・カモメ類を観察しました。

その後、堤防工事が終わったので五主池へ立ち寄り、キンクロハジロ、スズカモの大群と9羽のセイタカシギを観察しました。

その後大池へ移動し、お目当てのシマアジ、コムクドリ、また夏羽に移行中のツルシギ、夏羽になったオオハシシギが見られました。セイタカシギもさらに7羽でました。アメリカカゴモらしきも出現しました。

全体で48種と満足のできる内容だったと思います。

● 五十鈴川上流探鳥会

2012年4月21日(土) 6:30 ~ 8:00

伊勢市 五十鈴川上流

杉原 豊 中西 章 参加者4名(会員4名)  
カワウ、キジバト、アオゲラ、コゲラ、ツバ  
メ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、  
ルリビタキ、ウグイス、オオルリ、エナ  
ガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、カワ  
ラヒワ、ハシブトガラス 計17種

雨でも、さえずりがよく聞こえた。霧の中  
で新緑がまぶしく美しい。雨(暗いため?)  
で鳥の警戒心が弱いのか、キジバトの摂餌行  
動がごく近くで観察できた。例年なら開花し  
ているフジがまったく見られなかった。

### ● 木曾岬干拓地探鳥会

2012年4月22日(日)9:00~12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地  
共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者4名(会員3名)  
カワウ(30)、ダイサギ(5)、コサギ(3)、アオサ  
ギ(3)、マガモ(2)、カルガモ(21)、コガモ(15)、  
ハシビロガモ(9)、ホシハジロ(1)、キジ(4)、  
オオバン(1)、ケリ(22)、クサシギ(5)、イソシ  
ギ(2)、タシギ(2)、ハイイロヒレアシシギ(1)、  
ユリカモメ(1)、キジバト(9)、ヒバリ(4)、ツ  
バメ(30)、ハクセキレイ(1)、ヒヨドリ(1)、ツ  
グミ(30)、スズメ(15)、ムクドリ(11)、ハシボ  
ソガラス(30)、ハシブトガラス(100)、ドバト(8)  
計28種

雨降りのため参加者は4名と、この探鳥会  
では少ない。雨のため一カ所での長い時間の  
観察はできなかった。猛禽類は一羽も観察で  
きなかったが、外洋性のハイイロヒレアシシ  
ギを見つけることができた。

### ● 志原川及び志原水田周辺探鳥会

(2012年4月22日開催予定でしたが、雨の  
ため中止しました。)

### ● 度会町鸚鵡(おうむ)石探鳥会

2012年4月29日(日)9:30~13:00

度会郡度会町 南中村

西村 泉 小坂里香 参加者11名(会員9  
名)

アオサギ、トビ、サシバ、アオゲラ、コゲラ、  
セグロセキレイ、ヒヨドリ、カワガラス、ウ  
グイス、オオルリ、エナガ、ヤマガラ、シジ  
ュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、

カケス、ハシブトガラス 計18種

連休初日ということもあつてか参加者は少  
なかったものの、天候に恵まれ探鳥会日和と  
なった。

田植えが終わったばかりの畦道には可憐な  
草花が咲き、四方の山々でウグイスがさえず  
り、鸚鵡石付近ではオオルリの高らかな声、  
上空にはサシバが飛んでいた。

のどかな春の里山を楽しんだ。しかし、こ  
こには大規模な風力発電計画があり、環境へ  
の影響が心配される。参加した住民の一人も、  
健康面での不安を口にしていて、今後の活動  
について検討していきたい。

=====

### 編集後記

もう、木々は緑一色になり、春の花もなくな  
った。ウノハナもみんな落ちてしまった。  
ノリウツギの花が咲けば、もう秋を待つだけ  
である。しかし、鳥は子育てをもう終えたも  
のもある。オオタカやサシバはこれから巣立  
つだろう。そういえばサシバの子育てをもう、  
10年以上見ていない。今回は2号をまとめて  
編集した。思いのほか時間がかかった。時間  
があれば、もっとよい出来栄えになるだろう  
が。会員諸氏の力を借りて、もっと充実した  
ものにしたいものだ。できれば年に6回くら  
い発行したい。(M. H.)

しろちどり 72号

2012年7月1日発行

題 字:濱田 稔

表紙絵:杉原 豊

編 集:近藤義孝

511-0123 桑名市多度町北猪飼 521

発行所:日本野鳥の会三重

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

[http://www.geocities.jp/sirochidori\\_mie/](http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/)

印 刷:伊藤印刷株式会社

〒514-0027 三重県津市大門 32-13